令和８年度

校区意見交換会報告書



2026.10 那覇市まちづくり協働推進課



令和８年度　校区意見交換会報告書

目次

第１章　事業の概要

１－１　事業概要　02

１－２　事前アンケート結果　03

１－３　オンライン会長会　08

第２章　実施内容

２－１　全体会（前半）　11

２－２　分科会①（会長）　15

２－３　分科会②（事務局）　19

２－４　分科会③（会計）　23

２－５　全体会（後半）　27

第３章　参考資料

３－１　各小学校区まちづくり協議会/協議会準備会/たまご会概要一覧　35

３－２　編集後記　41

〇統一ワード

・この報告書では各団体・組織の名称について、正式名称又は下記の略称で記載します。

・那覇市小学校区まちづくり協議会：校区まち協

・那覇市まちづくり協働推進課：まち協課

第１章
事業の概要



1-1 事業概要

「まち協アップデート会議」
～つながる・重なる・楽しくなる（楽になる）～

▶ 令和8年度校区意見交換会の狙い

・全校区まち協が日ごろの課題や蓄積された知恵と工夫を共有する
・他校区との交流を深め、今後の活動の幅をさらに広げる
・より良い校区まち協を運営していくためのヒントやアイデア、モチベーションが得られる
・「AIなどの先端技術」や「コミュニティ・スクール等の新しい連携」の可能性に触れ、地域ビジョンを捉えなおす

▶ プログラム

令和8年8月30日（日）13:00～17:45 那覇市牧志駅前ほしぞら公民館

時間	内容
12:30	開場・受付
13:00	開会・あいさつ 市民文化部 副部長　宮城 由香
	全体会 方針策定に関わる報告、コミュニティ・スクール（CS） 情報発信必要性について
14:15	分科会 各分科会へ移動しそれぞれの学びへ 分科会①会長向け「地域の仲間を増やす『誘い手』ワークショップ」 分科会②事務局向け「また来たい！と思える場づくり」 分科会③会計担当者向け「補助金の考え方と実務のポイント」
15:15	全体会 全体会場へ戻り、それぞれの分科会での学びをお互い共有
15:40	閉会・あいさつ 市民文化部 部長　石川 泰江
15:40	懇親会
15:45	市長あいさつ 那覇市長　知念 覚
15:50	乾杯 松川小学校区ひと・まちづくり協議会 会長　金城 辰美
17:45	閉会・片付け

▶ 参加者

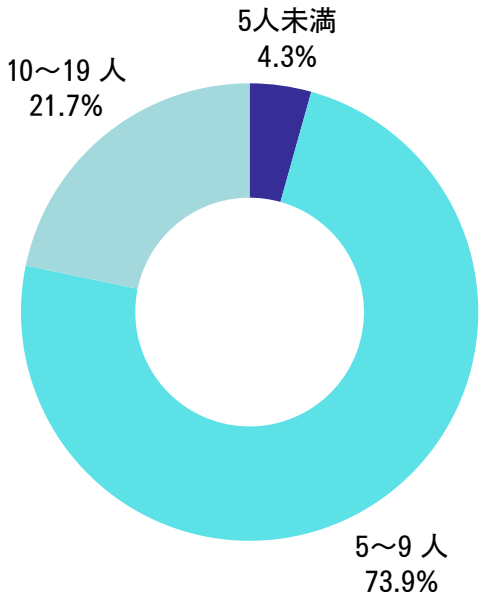
〇対象
那覇市小学校区まちづくり協議会及び同準備会・たまご会　24校区の代表者

〇参加者　75人

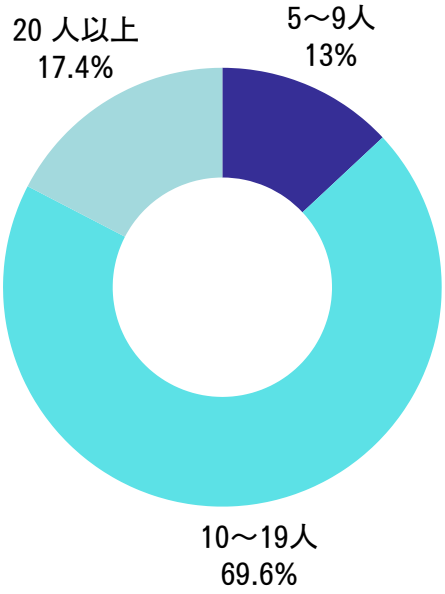
校区まち協	来賓・スタッフ等
57人	18人

1-2 事前アンケート

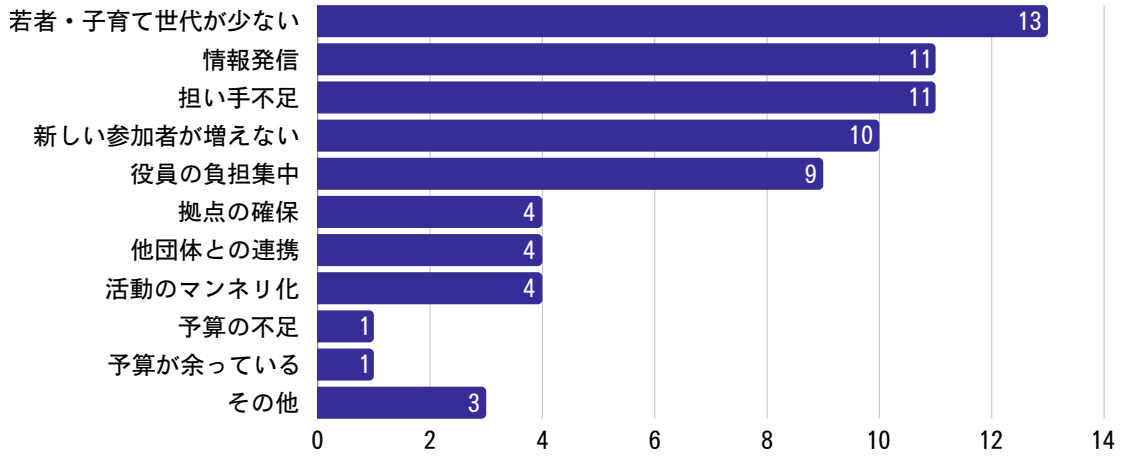
Q1　コアメンバー数



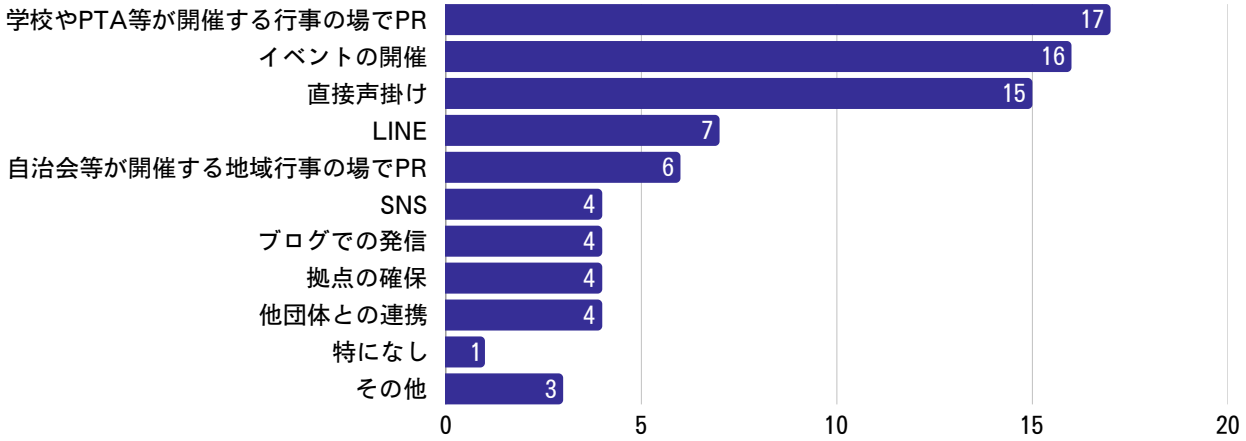
Q2　定例会の平均参加人数



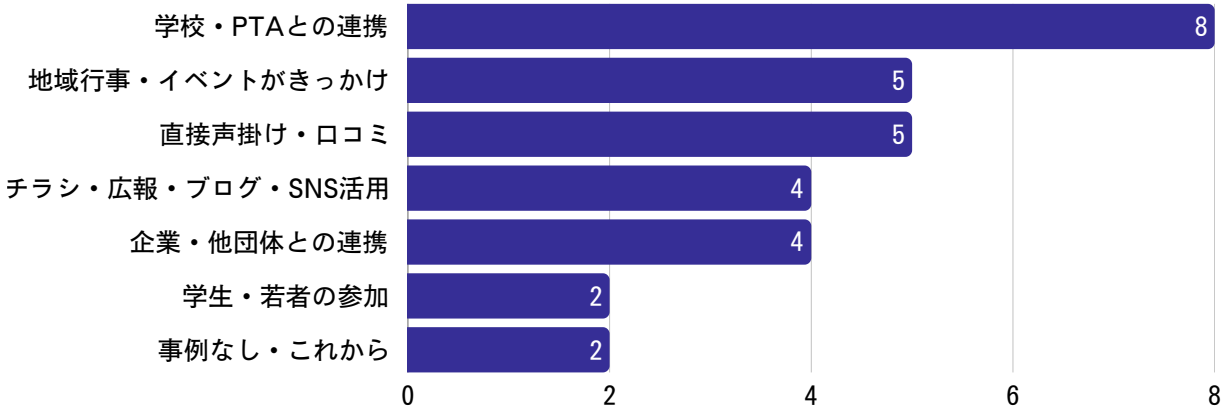
Q3　現在感じている課題（3つまで選択可）



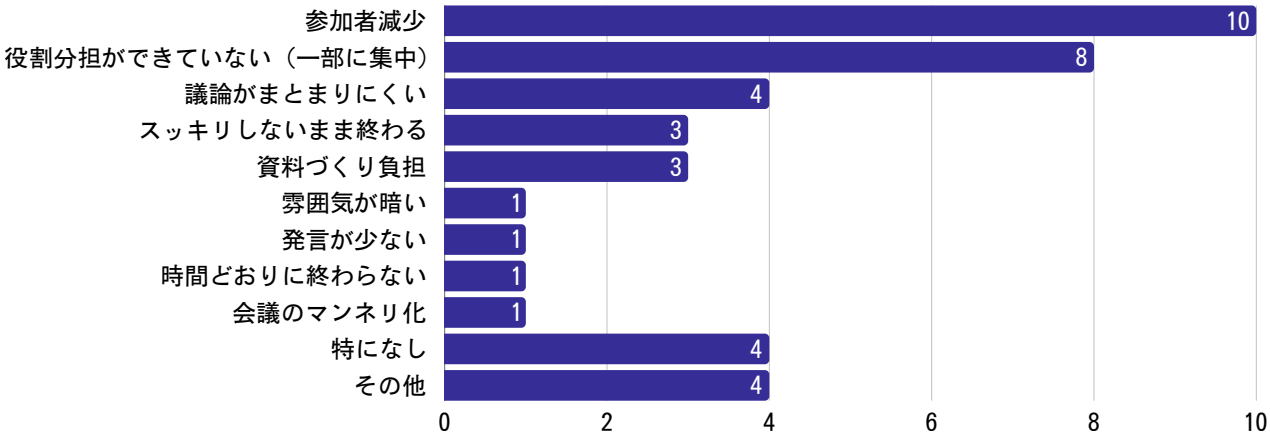
Q4　参加者・担い手を増やす取組（複数選択）



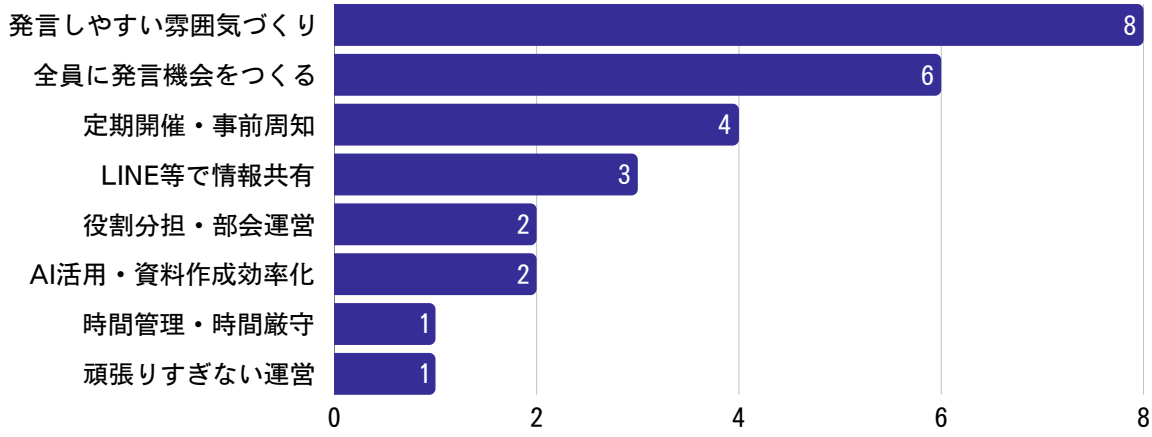
Q5　参加者づくりで増えた事例・要因（複数選択）



Q6　会議運営で感じている課題

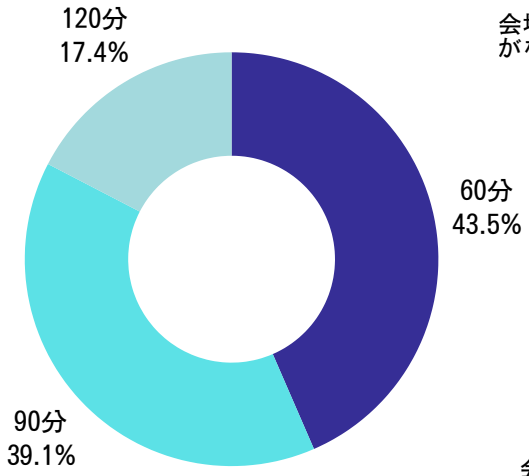


Q7　会議をより良くする工夫（自由記述のテーマ集計）

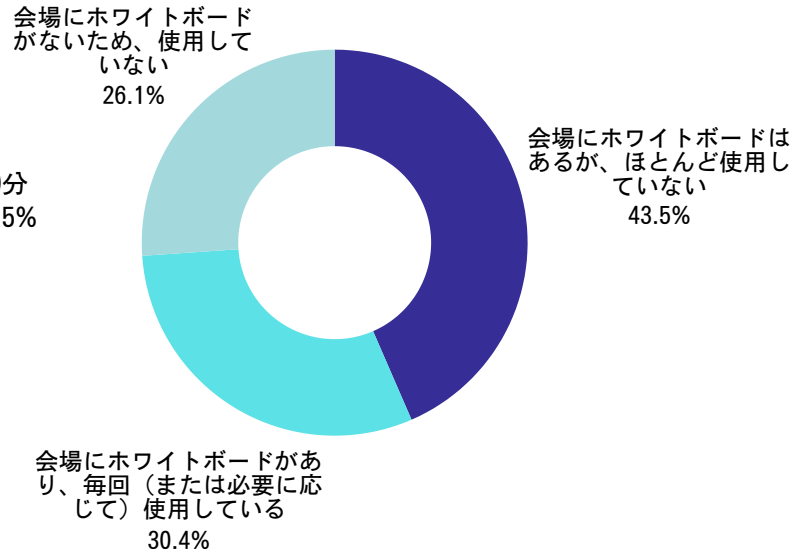


1 - 2 事前アンケート

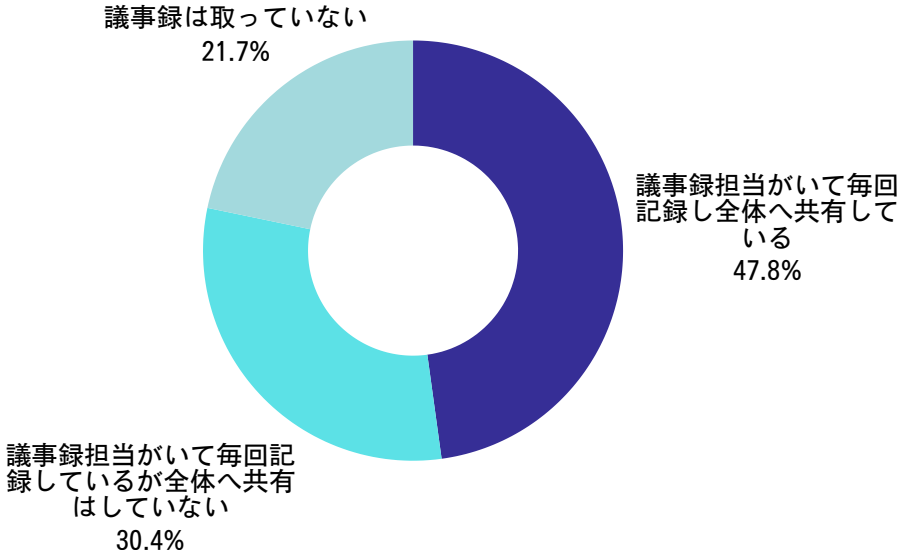
Q8-1　1回あたりの設定時間



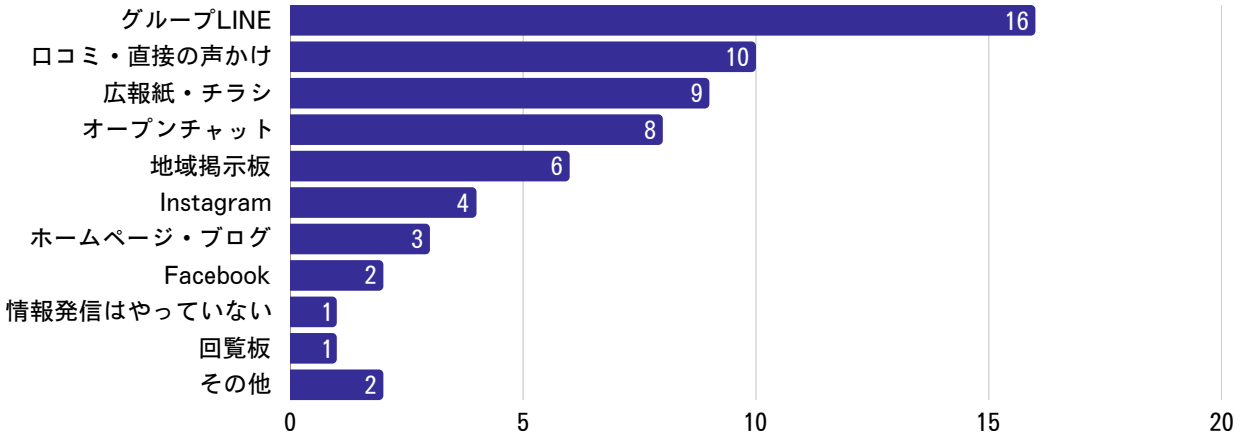
Q8-2　板書・議論の見える化



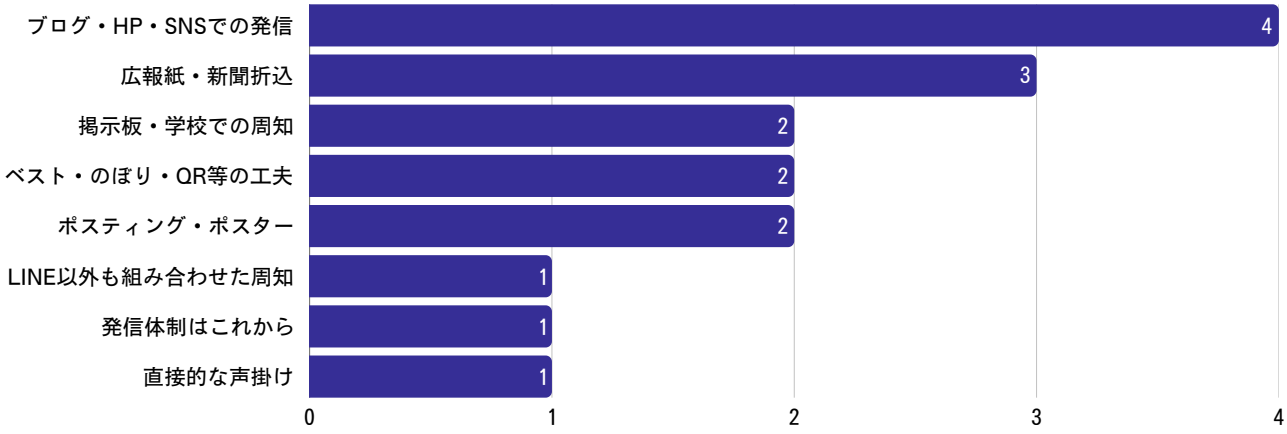
Q8-3　議事録



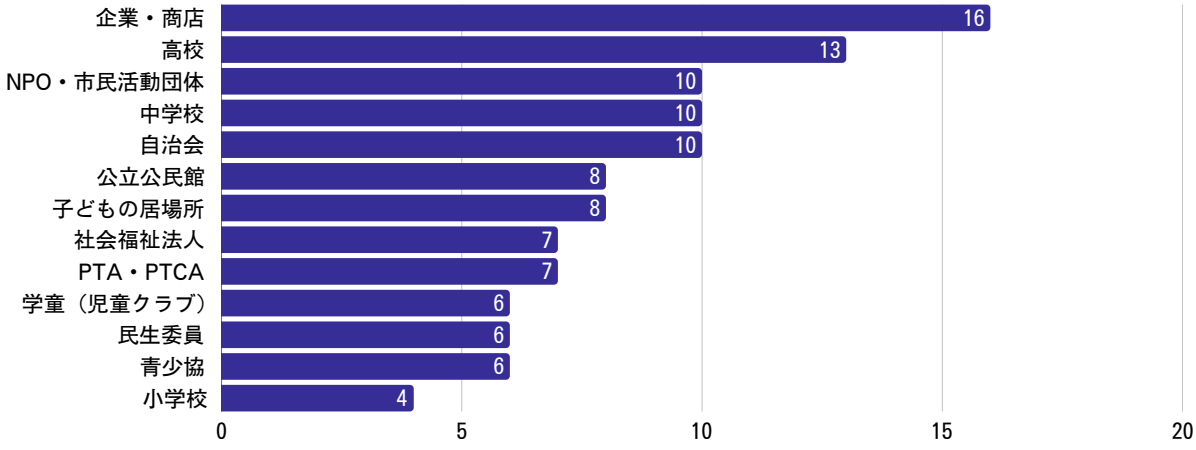
Q9　情報発信の方法（複数自由回答）



Q10　効果があった情報発信の工夫（複数自由回答）

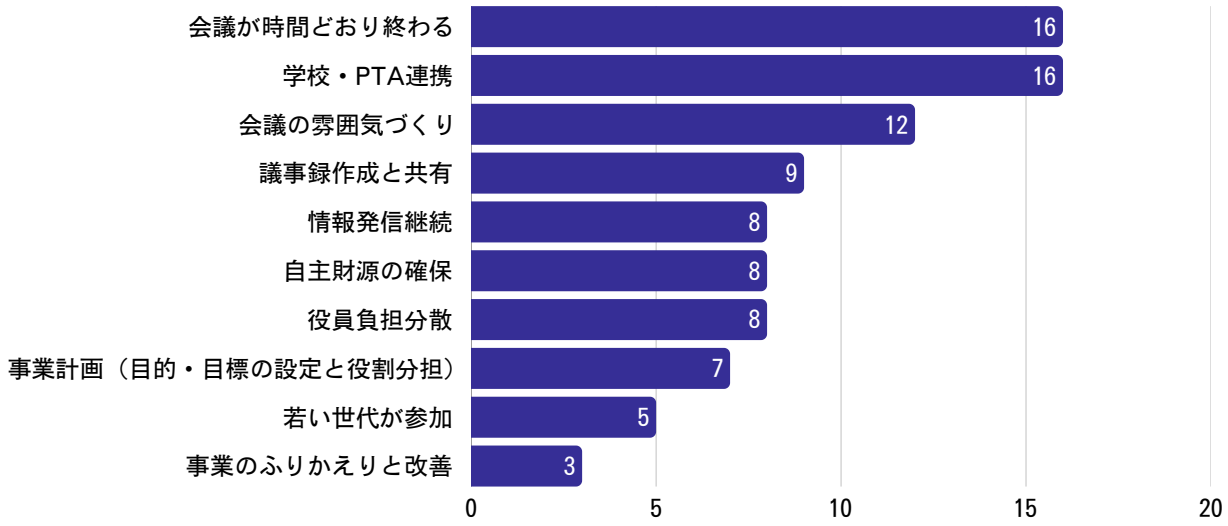


Q11　現在参加していただけていない・関わりがうすい団体（複数選択）



1 - 2 事前アンケート

Q12　比較的うまくできていること（複数選択）



Q13　他地域にも紹介できそうな工夫

（与儀）
しっかりした事務局体制づくり（個人芸に頼るところ大きいですが、、）

（小禄）
なは市民協働大学院受講生の企画を、地域会議でひとりでも多くの方に知ってもらって、応援することで、人材発掘や企画作りのアウトソーシングができるはずです。

（仲井真）
こいのぼりまつり(大型イベント)を別で実行委員会(実行委員長はまち協会長と別）を立ち上げ、 仲まち協としてはサポートという形で、これまでの地域の人財を活用できていること。まち協としての負担は軽減。

（銘苅）
事業企画で文化・芸術のテーマを重視している。人と人をつなげるために地域で表現する機会をつくり、誰でも参加出来る企画は、地域活性化へつながる。 特に通り会（地域企業団体）は地域とのつながりを求めているので、地域住民・企業が一緒になって、気軽に誰でも参加できる「第九を歌おうプロジェクト」は音楽で地域のつながりを生み出し、企業・住民ともに音楽通じて WIN-WINの関係を生み出す企画は、他の地域へ紹介できます。

（那覇）
毎回、地域のお菓子を紹介して、お菓子を楽しみながら情報交換会を行っていること。

（泊）
まちづくり推進課の皆さんをハブとしてお互いの連携、協力は可能だと思います。

（城東）
先ずは、やっている私たち本人が楽しみながら活動して、少しでも多くの人に、まち協って楽しそうだから参加してみたいと思ってもらえるよう工夫すること。

（城岳）
自治会や民生委員、学校やPTA会長が積極的に参画していること。

（金城）
プロジェクト支援事業による会のあり方。

（高良）
参加者全員から近況報告をしてもらい、誰でも発言しやすい雰囲気をつくっていること。

1-3 オンライン会長会



▶日時

令和８年６月２日（木）19:00～20:30　Zoom開催

▶目的

・校区意見交換会に向けての情報共有
・どのような議題にするかの意見交換

▶テーマ

行政も交えて他のまち協さん同士、今一番話し合いたいことはなんですか？

昨年度までは、まちづくり基本方針の作成に関連した意見交換を行ってきた。
今回は、各まち協が日頃感じている困りごとや、他校区に聞いてみたいことを出し合い、
８月の校区意見交換会で話し合うテーマにつなげる場として開催。

○活動を広げる仲間づくり

新しい参加者を増やす工夫を知りたい！

地域とのつながりや運営の負担を減らすためには…？

メンバー同士の交流・参加を活発にするためにはどうしたらいいだろう

→参加者を増やし、
活動を盛り上げるヒントを共有したい

○効果的な情報発信と交流の場

活動を多くの人に知ってもらうには、どんな情報発信をしたらいいだろう

SNSを使いこなして、発信できたらな～

市民の力と人とのつながり、活動に活かすためには

他校区と情報交換や交流して、活動をよくしたい！

→地域の情報発信と交流を深めるための工夫を学びたい

○会議や活動をより良くする工夫

資料作りが大変だな～

参加してよかった！と思える活動にできないだろうか

組織運営や役割体制について、他のところのも気になる！

無理なく活動するためには??

→定例会・活動の活性化につながるヒントを探りたい

○予算と場所の賢い使い方

予算が足りない時はどうしよう

ほかの地域はどうやってお金をつかっているのだろう?

予算活用にの仕方について聞きたい！運用気になるな～

補助金をうまく使うことができないな

→限られた予算と場所を有効活用するための知恵を共有したい

＜オンライン会長会から見えてきたこと＞

・参加者の広げ方、情報発信、会議の工夫、予算や場所の使い方など、各校区で知恵を持ち寄りたいという思いが多く出ていた
・「他の校区ではどうしているかを知りたい」という声が多く、横のつながりへの期待が感じられた
・校区意見交換会では、実例の紹介や工夫の共有ができると今後の活動のヒントにつながりそう

第２章
実施内容



2-1 全体会（前半）

報告書作成担当：まちづくり協働推進課　矢田部 建佑
発表者：まちづくり協働推進課　野底 武光
場所：牧志駅前ほしぞら公民館　ホール

24校区の現在地から、次の一歩を描く

令和８年8月30日、牧志駅前ほしぞら公民館に、市内24校区のまちづくり協議会、準備会、たまご会の関係者が集まりました。

全体会前半のテーマは、
「伝統×テクノロジーで未来を描く！」です。
「つながる・重なる・楽しくなる」を合言葉に、
それぞれの校区で起きている変化や、
地域で積み重ねてきた工夫を共有しました。



▶「今日は、何のために集まったのか」

全体会は、今回の意見交換会の目的を参加者同士で確かめることから始まりました。

24校区では、組織の形や活動内容、地域の特徴はそれぞれ異なります。しかし、事前アンケートからは、「担い手を増やしたい」「活動をもっと知ってもらいたい」「会議をより良くしたい」「一部の人に負担が集中している」など、多くの校区に共通する悩みも見えてきました。

一つの校区だけで抱えているように感じる悩みも、ほかの校区の話を聞くと、実は共通していることがあります。

「悩んでいるのは自分たちだけではなかった」と知ることも、次の一歩を考えるための大切な出発点になります。

▶地域は、すでに動き始めている...!!!

市内では、真和志地域における校区を越えた連携や、会長交代をきっかけとした新しい体制づくり、準備会から協議会への移行など、さまざまな変化が生まれています。城岳小学校区や神原小学校区でも、地域の人たちが集まり、協議会の設立に向けた話し合いを重ねています。

活動の規模や進み方は違っても、それぞれの地域で「自分たちの地域を、もっと良くしたい」という思いが動き始めています。他校区の「現在地」を知ることは、自分たちの地域を改めて見つめ、次にできることを考えるきっかけになります。

▶地域の声から、未来を描く

地域の将来像は、行政だけで決めるものではありません。そこに暮らす人、働く人、学ぶ人が、「地域の好きなところ」「少し困っていること」「これからも大切にしたいこと」を持ち寄り、対話を重ねながら形にしていくものです。

▶声を集める

全体会では、地域の将来像を考える取組として、真嘉比小学校区で行われたアンケートや全戸配布、仲井真小学校区のビジョンづくりワークショップなどを紹介しました。

アンケートやワークショップは、意見を集計するためだけのものではありません。普段は地域活動に参加していない人や、会議へ足を運ぶ機会が少ない人の思いに触れ、地域について一緒に考える入口にもなります。

▶すぐに答えを決めず、一緒に考える

那覇市が進める「地域まちづくり推進方針」も、行政があらかじめ答えを決めるものではありません。大切なのは、すぐに結論を出すことではなく、地域に関わる人たちが「どのような地域にしたいのか」を安心して語り合える場をつくることです。

異なる世代や立場の人が話すことで、これまで気づかなかった地域の魅力や、新しい可能性が見えてきます。

▶まち協は「つながりの場」へ

これからの校区まち協には、事業を実施する組織としての役割だけでなく、多様な人が出会い、地域について話し合う「つながりの場」としての役割も期待されています。

誰もが参加できる対話の入口をつくり、対話から新しいつながりを生み、そのつながりを次の活動や協働へ広げていくことが大切です。

▶子どもは、地域を一緒につくる人

若狭小学校区の「若狭町の歴史をつなぐ未来プロジェクト」、那覇中学校のまちづくり部、小禄中学校と地域が取り組むひよどり公園での活動など、子どもたちが地域づくりに関わる事例も紹介しました。

子どもは、地域から支えられるだけの存在ではありません。地域を知り、大人と一緒に考え、未来をつくる大切な一員です。

コミュニティ・スクールも、学校を地域が支援するだけの仕組みではありません。子どもを真ん中に、学校と地域が出会い、一緒に地域の未来を考えるきっかけになります。

▶小さな工夫を、次の入口に

全体会では、各校区がこれまでの活動で培ってきた工夫も共有しました。助成金の活用方法、祭りの売上を活動費や交流費に充てる工夫、ブログやSNSによる情報発信、学校や地域団体との連携など、ほかの校区の実践を知ることで、「自分たちの地域でも試してみたい」という新しいヒントが生まれていました。

▶発信が、新しい参加の入口になる

全活動の様子や参加した人の声を発信することは、単に開催報告をするだけではなく、「こんな活動なら参加してみたい」「この人たちと一緒に何かしてみたい」と思ってもらう入口になります。

ブログやSNS、チラシ、口コミなど、それぞれの地域に合った方法を組み合わせながら、活動の楽しさや地域の雰囲気を伝えていくことが大切です。

AIなどの新しい技術も、資料づくりや情報整理、発信の負担を軽くするための選択肢の一つです。便利な道具を上手に取り入れることで、地域活動を少し「楽に」、そして「楽しく」できる可能性があります。

▶話すことで、考えが具体的になる

全体会の途中では、三人一組になり、紹介された事例について感じたことや、自分たちの地域で試してみたいことを共有しました。

話を聞くだけでなく、自分の言葉で誰かに伝えることで、漠然としていた考えが少しずつ具体的になります。
ほかの校区の事例を自分の地域に重ねながら話す姿や、短い会話から新しいアイデアが生まれる様子も見られました。



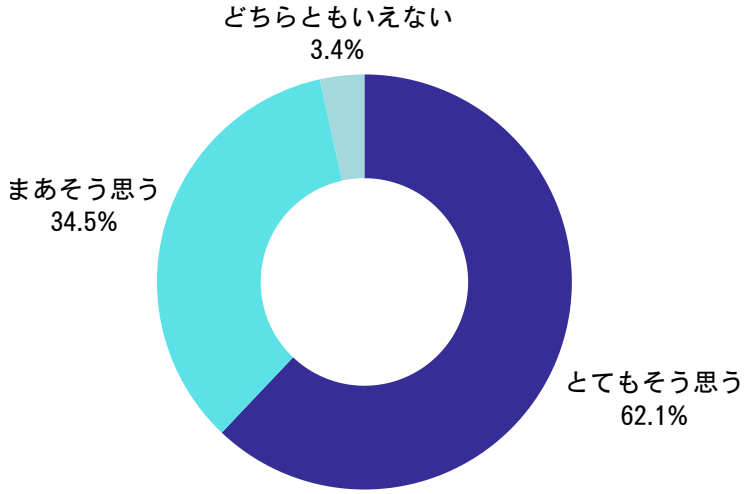
▶担当の所感

今回の全体会では、各校区の取組や変化を共有することで、参加者が自分たちの地域の現在地と、これからの可能性を考える時間となりました。紹介した事例を自分の校区に重ねながら語り合う姿や、3人一組の対話から新たなアイデアが生まれる様子も見られた。校区を越えて経験や工夫を持ち寄ることが、地域の次の一歩につながることを改めて感じました。

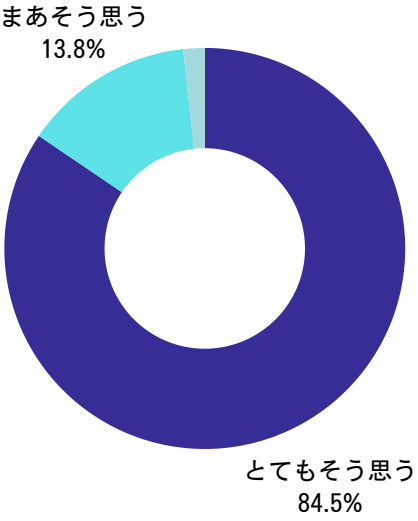
今後のまちづくり協議会が、人と人との対話を生み、新たなつながりや協働が始まる「場」として、さらに広がっていくことを期待したいです。

2-1 全体会（前半）事後アンケート

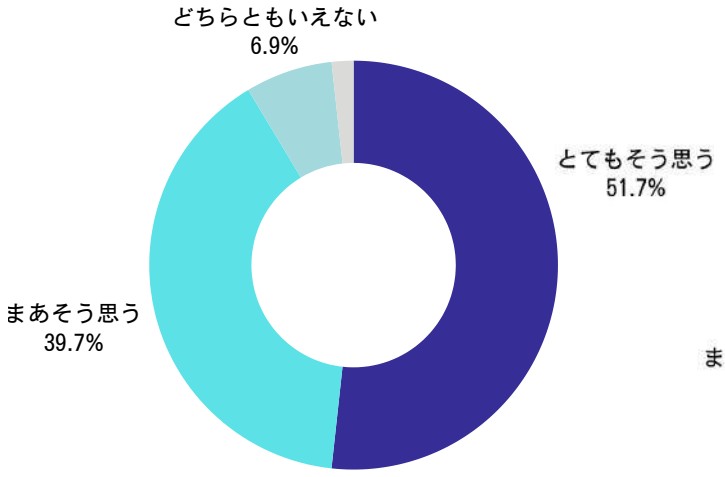
Q1　事前アンケート結果や全体を通して、「悩んでいるのは自分たちだけじゃない」という安心感や、一体感をえられましたか？



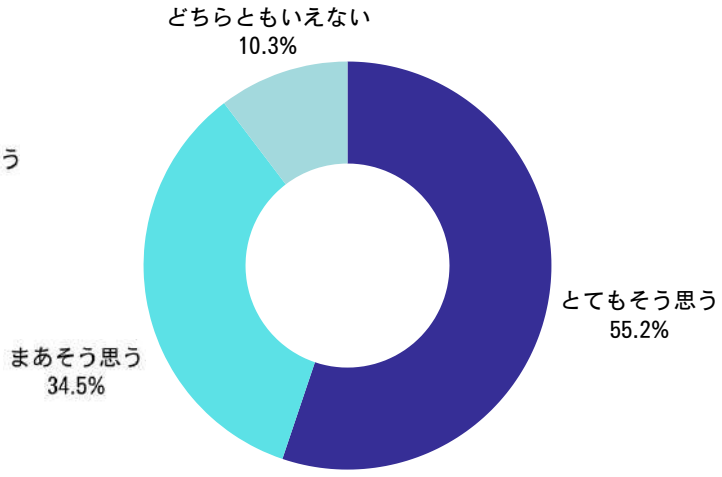
Q2　情報発信の必要性を感じましたか？



Q3　まちづくり協議会とコミュニティ・スクールの関係や対話の重要性を理解できましたか？



Q4　AIの活用などによって、活動が「楽に」「楽しく」なりそうだと感じましたか？



2-2 分科会①（会長）

報告書作成担当：まちづくり協働推進課　後藤 柊人
発表者：まちづくり協働推進課　後藤 柊人・矢田部 建佑
場所：牧志駅前ほしぞら公民館　ホール

仲間は、どうやって増えていく？

▶会長の皆さんと「誘い手」について考えてみました

地域活動でよく聞かれるのが、「いつも同じメンバーになってしまう」「新しい人がなかなか入ってこない」という声です。
では、地域に関わる人を増やすためには、何が必要なのでしょうか。

今回の分科会①では、いきなりどうやって新しい人を集めるか、を考えるのではなく、少し視点を変えました。着目したのは、人が地域に関わり始める“きっかけ”です。場があるだけで自然と人が集まるわけではない。その場と人との間には、何か「きっかけ」がある。そこで、そのきっかけをつくる人を「誘い手」と呼び、会長の皆さんと一緒に考えてみることにしました。

▶まず聞いてみた。「あなたを地域に誘ったのは誰ですか？

最初のワークでは、「あなたが地域に関わるきっかけをくれたのは誰？」と問いかけました。今では地域の中心で活動している会長の皆さんも、最初から会長だったわけではありません。誰に誘われたのか、どんな言葉をかけられたのか、なぜその時に行ってみようと思ったのか、をそれぞれに振り返ってもらいました。

改めて自分の“地域活動のはじまり”を思い返すと、そこには誰かの存在があります。自分から飛び込んだ人もいれば、知り合いに声をかけられた人、最初はそれほど乗り気ではなかったけれど「ちょっと来てみない？」と言われて参加した人もいる。きっかけはそれぞれですが、誰かに誘われたことが最初の一歩になっていることがほとんどです。今では人を誘う側にいる人も、かつては誘われて参加した人だった。ここに今回考えたかったことのヒントがありました。

▶「誘う人」がいるから、「参加する人」が生まれる



そこで紹介したのが、今回のキーワードである「誘い手」です。誘い手は特別な資格を持つ人ではありません。「今度こんなのあるけど、来てみない？」「これ、あなた好きそうだから一緒にやらない？」。そんな何気ない一言で、誰かと地域との間に最初の接点をつくる人です。

一人の誘い手が誰かに声をかけ、誘われた人が参加する。その人が地域に慣れてくると、今度は別の誰かに声をかける側になるかもしれない。
誘う人 → 参加する人 → 次の誘い手、という循環が生まれれば、地域活動への入口も少しずつ増えていきます。参加者を一人ひとり探し続けるだけではなく、「人を誘ってくれる人」を地域の中に増やす。そんな仲間づくりの考え方を共有しました。

▶では、私たちの地域には誰がいる？

ここから、視点を地域へ移しました。自分たちの地域には、どんな人がいるだろうか。

自治会、PTA、学校関係者、民生委員、福祉関係者、企業や商店、若者・学生、趣味のつながりを持つ人など、地域で関わりのある人たちを書き出してもらいました。

付箋には属性、名前、どんな人なのかを一言で書き、似た属性をまとめながら、地域の中にどのような人がいて、どのようなつながりがあるのかを見える化しました。一口に地域と言っても、その中には想像以上にさまざまな人がいて、それぞれ違うつながりを持っています。会議に来ている人だけで地域を見るのではなく、会議には来ていなくても、地域の中で多くの人とつながっている人にも目を向ける時間になりました。

▶見比べてみると、自分たちの地域が見えてきた

地域の人や主体、つながりを見える化した後は、他の校区まち協が作ったものと見比べながら、それぞれの地域の特徴を共有しました。



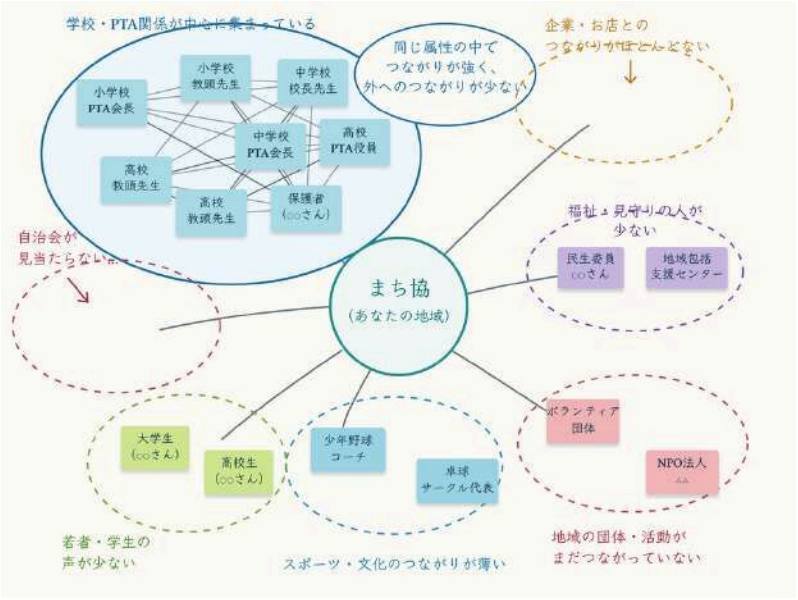
同じ校区まち協でも、学校やPTAとのつながりが強い地域、自治会を中心につながっている地域など、その形はさまざまです。他の地域と比べることで、自分たちの強いつながりや、まだつながりの少ないところ、つながりの偏りも見えてきました。

大切なのは、つながりの多さを比べることではなく、自分たちの地域が今、どんなつながり方をしているのかを知ることです。

そして、つながりを眺めていると、人と人を自然につないでいたり、いろいろな人に声をかけていたりする人の存　在も見えてきます。

そうした人は、すでに地域の中で自然と「誘い手」の役割を担っている人なのかもしれません。

今回のワークが、自分たちの地域の特徴を知るとともに、そんな人の存在に気づくきっかけになっていたらと思います。



地域の人や団体のつながりを見える化したワーク

▶誘い手が違えば、声が届く人も変わる

もう一つ大切にしたのが、誘い手の多様性です。自治会のつながりが強い人からは自治会へ、PTAのつながりが強い人からは子育て世代へ、商店の人からは地域の事業者へ。誘い手が持つつながりによって、声が届く相手も変わります。逆に、誘い手がいつも同じ人たちだけなら、声が届く範囲も同じになりやすい。いろいろな立場の人が、それぞれの得意な範囲で「誘い手」になる状態を地域の中につくることが、仲間の広がりにつながるのではないかと考えました。

▶人がいないではなく、誰が誰を誘えるだろう？

今回の分科会で印象に残ったのは、会長の皆さんが自分の地域にいる人の顔を思い浮かべながら話していたことでした。地域の仲間づくりというと、「若い人が来ない」「新しい人がいない」「いつも同じメンバーになる」というところから話が始まりがちです。もちろん、それは実際にある問題です。

でも今回、地域にいる人を書き出してみると、意外とたくさんの人がいる。そして、その人たちを活動してくれる人かどうかではなく、誰かを誘える人かどうかという視点で見てみる。すると、「あの人、顔広いよね」「あの人なら声かけてくれそう」「あの人、結構おせっかいだから（笑）」と、これまでとは少し違った人が見えてきました。ここが、今回やってみて面白かったところです。

地域の仲間を増やそうとすると、
どうしても新しい人を連れてこなければいけない
と考えてしまいがちです。でも、ゼロから新しい人を探す前に、今いる人をもう一度見てみる。
その人は誰とつながっているのか。何が得意なのか。
誰なら誘えそうなのか。そうやって見ていくと、
地域にはすでにたくさんの可能性があります。



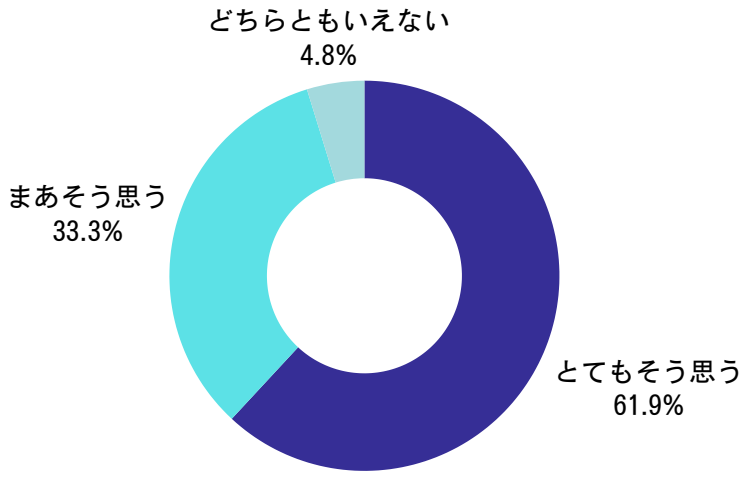
▶担当者の気づき

今回見つけた“あの人”や、すでに一緒に活動している“あの人”がすぐに「誘い手」になるとは限りません。むしろ、ここからが本番です。声をかけてみる。一緒に来てもらう。その人の得意なことを見つけ、小さな役割をお願いしてみる。そして、いつかその人が別の誰かに「今度、ちょっと来てみない？」と言ってくれたらいい。

今回の分科会で見つけたのは、新しい仲間ではなく、地域への入口をつくってくれる人なのかもしれません。「誰が、誰を誘えるだろう？」という視点の変化が、地域の仲間づくりを少しずつ変えていくのではないかと思います。

2-2 分科会①（会長）事後アンケート

Q5　分科会①仲間づくりの内容は、今後の活動や仲間づくりに持ち帰ることができそうですか？



○とてもそう思う

・現在まちづくり協議会に関わっている人たちを分類してみて、足りないつながりを作っていこうと思った。
・まち協のスカウトマンの一員になろう！！
・地域の様々な団体とつながっていくことが大切だと感じた。
・学校や自治会関係者以外への参加方法や工夫が聞けてよかったです。
・誘い手の育成が持続可能な組織運営のカギとなることを改めて感じた。
・誘っても継続していただく事や継続的なメンバーの確保の課題はどこもほとんど一緒だと気づきました。
・「誘い手」という考え方を地域のみんなで共有し、一部の役員だけでなく、みんなで仲間を広げていく。「人を集める」のではなく、「人を誘い、人と人をつなぐ人を増やす」ことが、地域活動を広げる鍵になることを学べました。
・自分自身もまずは試してみて振り返り伝えていきたいと思う。
・コアメンバーの偏りがあること。
・「誘い手」の学びはとても勉強になりました！まち協コアメンバーにも共有したいと思います。

○まあそう思う

・メンバーの属性マップ、定期的にやっていきたい。集まらないではなく、呼びかけの方向、方法、客観的にみるのは大事ですね
・誘い手→少し強引でポジティブな人。属性に偏りがあれば、足りない属性に向けてどうやって情報を届けるか考える。実際、属性に偏りがあるので持ち帰ってまち協メンバーと考えてみたい
・広い分野の方々の力を、緩く繋がるを時間をかけて取り組むことができるようになれればその先のこども達が担って行ける環境準備に努めていけたら！と改めて思いました
・誘い手。まだまだ組織として未熟ゆえに、受け入れると言うより、一緒につくる人を求めて来たせいか、今も誘い手活動は積極的にやってなかったと気づいた。
・うちのまち協と他のとの違いなど。
・誘い手を広げてまずは人集めとその人の活動の継続性を一緒に進めていく事が大切だと思いました。

○どちらともいえない

・いつも集まる場所が必要。 自治会会館、公民館的な。

2 - 3 分科会②（事務局）

報告書作成担当：まちづくり協働推進課　渡嘉敷 奈津樹
発表者：まちづくり協働推進課　渡嘉敷 奈津樹・宮城 健太
場所：牧志駅前ほしぞら公民館　第１学習室

「また来たい！」と思える場づくり

各校区まち協の事務局担当者を対象に、分科会②『「また来たい！」と思える場づくり』を実施しました。

本分科会では、会議の進行方法やファシリテーション技術そのものを学ぶのではなく、「初めて参加した人が参加しやすく、次もまた参加したいと思える場とはどのようなものか」という視点から、日頃の会議や活動のあり方について考えることを目的としました。

地域活動において新たな担い手を増やしていくためには、参加を呼びかけるだけでなく、実際に足を運んでくれた人が安心してその場に加わり、継続して関わりたいと思える環境をつくることも重要です。

会長向けに実施した分科会①では、『誘い手』という概念に触れ、仲間を増やすためには？ということについて意見交換をしてもらいました。せっかく新しく参加してくれた方がいても、一度切りで来なくなってしまっては、少しもったいない気がしませんか？

そこで今回は、各校区で事務局を担う参加者同士で、日頃の経験や工夫を持ち寄りながら、「また来たい」と思える場づくりについて意見交換を行いました。



▶「新参者」と「古参者」の視点から考える

はじめに、地域の会議や活動には、自然と「前から参加している人（古参者）」と「新しく参加する人（新参者）」が生まれることを共有しました。

長く活動しているメンバーにとっては当たり前になっているルールや人間関係、これまでの話し合いの経緯なども、初めて参加する人にとっては分からないことが多いのではないでしょうか。こうした、既存メンバーが気づきにくい「見えないギャップ」が、新参者にとっての心理的ハードルとなっている場合があります。

古参者は「そのうち慣れてもらえばよい」と、新参者だけに適応を求めるのではなく、迎え入れる側の工夫が必要であるという視点を確認しました。

▶会議中のちょっとした工夫

ミニレクチャーでは、会議に参加しやすい状態・話しやすい雰囲気を生み出すためのポイントについて確認しました。会議の目的や終了時間、何をどこまで話し合うのかを事前に分かりやすくしておくことのほか、会場の広さや空調、照明など、参加者が過ごしやすい環境を整えることも「場づくり」の一つであることを共有しています。

また、新しい参加者がこれまでの話し合いの経緯や決定事項を把握できるようにすること、終了予定時間を意識して進行すること、大人数の場合には小グループに分かれて話しやすくすることなど、会議運営における様々な工夫についても確認しました。



▶「また来たい」と思える工夫を考えるワーク

講義の後は、まず参加者自身が「初めて会議に参加する人」の立場になって考えるワークを行いました。「（会議に）来る前」→「来たとき」→「会議中」→「終わったあと」の４つの場面に分け、どのようなことが不安？逆に何をしてもらえたら安心するか、等をそれぞれで考えてもらい、グループ内で共有しました。

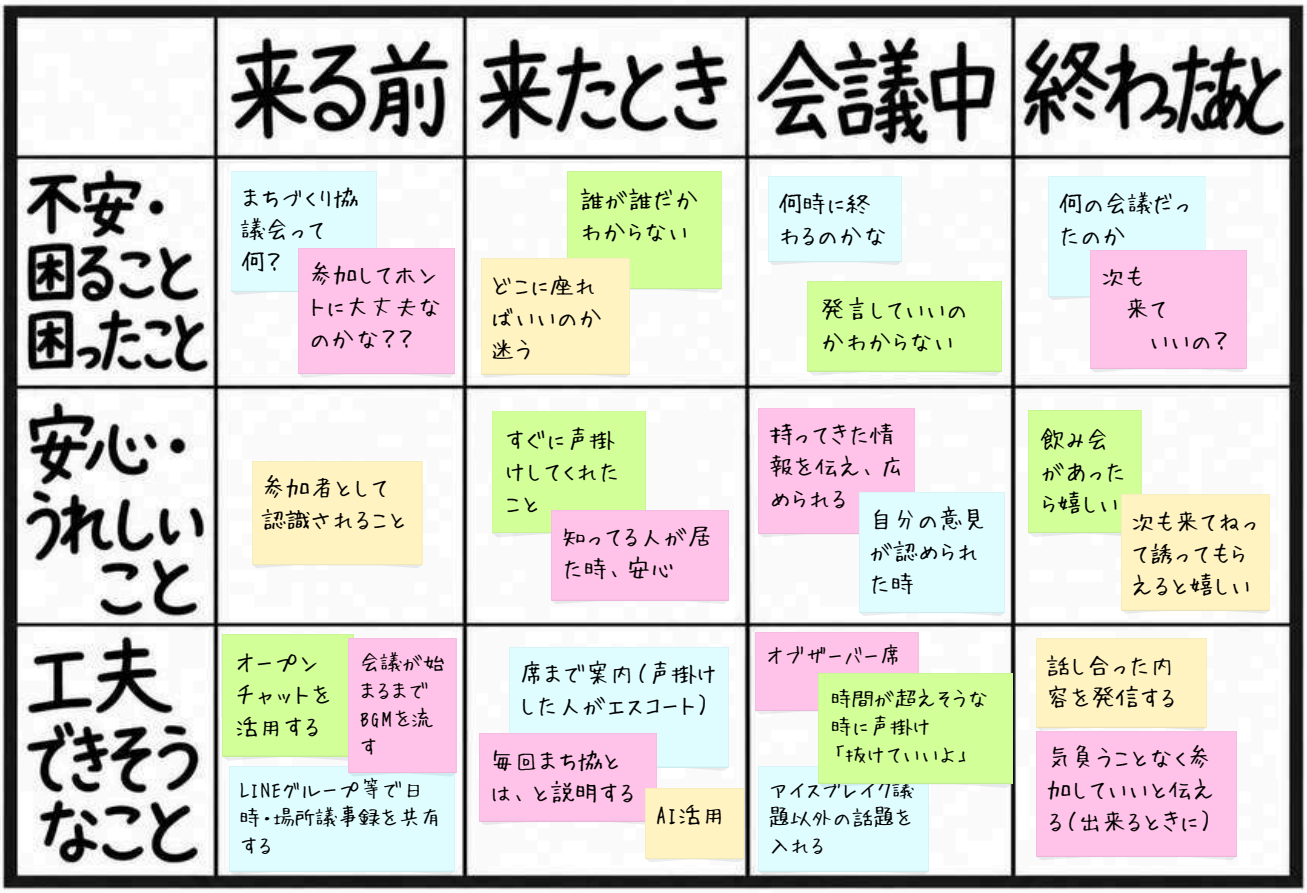
普段は会議を運営する側として参加することの多い事務局担当者が、あえて「初めて参加する側」の気持ちから会議を捉え直すことで、日頃は気づきにくい参加者側の不安や戸惑いについて考える機会となったのではないでしょうか。

ワークでは引き続き４つの場面ごとに、新しく参加した人に「また来たい」と思ってもらうためにどのような工夫ができるかを、参加者それぞれの経験を踏まえた具体的なアイデアが多数出されました。

ワークの終盤では、「次の会議で取り組みたい工夫」「印象に残った工夫」を各グループから発表していただき、全体共有を行っています。

例えば、初対面でも会話のきっかけが生まれるような「おもしろ自己紹介」を取り入れることや、AIなども活用しながら毎回「まち協とは何か」を分かりやすく説明すること、初めから発言することに抵抗がある人でも気軽に参加できる「オブザーバー席」を設けること、会議開始前にBGMを流して会場に入りやすい雰囲気をつくることなど、すぐに実践できそうな工夫が共有されました。

最後に 「次の会議で、まず１つ試してみよう。」という小さな宿題を皆さんに課しています。地域によって会議の規模や参加者数、活動内容は異なれど、自分たちの地域でも応用できそうなヒントを持ち帰る機会となりました。



実際にワークで出た意見

▶「また来たい」 雰囲気づくりのヒント

今回の分科会を通して、新しい参加者に継続して関わってもらうためには、「参加者を増やす」という入口だけでなく、参加した後にどのような経験をしてもらうかという視点が重要であることを改めて確認することができました。

会議の雰囲気、声のかけ方、情報の伝え方、発言しやすさ、終了時間への配慮など、一つひとつは小さな工夫であっても、新しく参加した人にとっては、その会議や活動の印象を左右する大きな要素となり得ます。

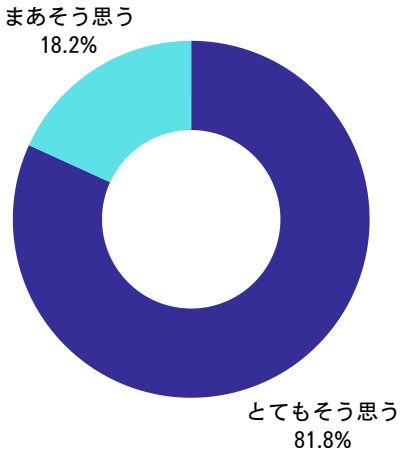
また、「新参者」と「古参者」は固定されたものではなく、同じ組織の中でも、新しいメンバーが加わるたびに生まれる関係である。そのため、新しい参加者だけに適応を求めるのではなく、迎える側が常に新しい人の目線に立って場を見直していくことが求められます。

終了後のアンケートにおいても、今回の分科会から得られた持ち帰りとして、「新参者が『また来たい』と思える雰囲気づくり」が挙げられており、参加者にとって今後の活動に活かせる具体的なヒントを得る機会となりました。

今後、各校区において今回出されたアイデアを持ち帰り、それぞれの地域の実情に合わせて実践していくことで、初めての人でも参加しやすく、継続して関わりたくなる協議会活動につながることが期待されるのではないでしょうか。

2 - 3 分科会②（事務局）事後アンケート

Q6　分科会② 場づくりの内容は、今後の会議や活動のヒントを持ち帰ることができそうですか？



〇とてもそう思う

・LINE/AI/BGMは、必要だと思いました
・松川小？毎回まち協とは何か、について聞かれるので5分の動画にして毎回流しているという事、理解が深まってとても良いと思いました！ぜひうちでも観たいので全体で動画を共有させて頂きたいです。
・BGMや自慢話をしてもらうなど。
・新しい方々の参加しやすい環境づくりの重要性を感じました。自己紹介の活用法など別の校区まち協実態や工夫されている事が共有されており参考になる事や自身のまち協へ活用できる環境がありがたい。
・悩みはだいたい同じ
・まち協の会議等の参加者の不安な事項、結構気配りが足りなかったところを再確認でき、また色々な手当ての方法等持ち帰れるものもいくつかありましたので良かったです。
・新参者の方がリラックスして参加できるように、また次回も参加したくなるような進め方が学べた
・まち協の活動の報告だけでなく、来てもらうためのSNS の活用方法も必要だと感じました。
・ 会議の進め方も工夫が必要だと思いました。
・「次も来てもらうために」の視点で事務局側ができること、提案できること、 たくさんあるなと思いました。
・そもそもまちづくり協議会についての説明不足があったことがわかった。
・誰でも気軽に参加していいということを発信できたらと思うお互いを認める、ネームプレートや最近の嬉しかったことを話してもらうなど

〇まあそう思う

・まち協それぞれの特性があるので、課題や工夫が共有できない事例もありましたが、参考に出来る事例も多くあり助かりました。新しい参加者の定着を目指して工夫していきたいと思います

2 - 4 分科会③（会計）

報告書作成担当：まちづくり協働推進課 新垣 威知郎
発表者：まちづくり協働推進課 新垣 威知郎／佐々木 一肇
場所：牧志駅前ほしぞら公民館　第２学習室

補助金の考え方と実務のポイント？

▶会計担当者の不安と負担感を取り除きましょう！！！

校区まち協会計担当者の方からよく聞こえてくるのが、補助金の適正な取り扱いとは？や、領収証などの書類整理が大変！という声です。

今回の分科会③では、会計担当者のこのような不安感や負担感を取り除けるよう、補助金の考え方や会計担当者の心構えを中心にまち協課職員も一緒に考え学びました。

▶「最初に共有したいこと」と「本日の目的」

最初に出席者の皆さんと本日の分科会で共有したいことを話させていただきました。

〇補助金は、地域の話し合いやつながり、協働を生み出す「地域づくりの場」を支えるためのもの。皆さんはその大事な補助金を預かっていて、それはすごく重要で、まちづくり協議会になくてはならい役割を担っている。

〇会計を担当しているということに誇りを持っていただきたい。その一方で財源は税金であり、適正な運用が大切になってくる。

〇本日の分科会で行う確認は、皆さんの補助金を守るためのものであり、かつ、有効に有意義に補助金を活用していただくためのもの。

〇困ったときは校区まち協の役員やメンバー、まち協課の担当職員と確認・相談しながら進めていきましょう。

という４点を共有事項であるという事を確認したあと、分科会の目的についても確認を行いました。

①会計に関する不安や負担感を少しでも軽くする。
②補助金の適切な支出について理解を深める。
③迷った時の考え方や相談の視点をまちづくり協議会に持ち帰る。

▶「補助金の基本的な考え方」について

補助金って何の為の補助金だろうか？

普段補助金を取り扱っている校区まち協の会計担当者はもちろん、まち協課の職員も、ややもすると見落としがちな視点ではないでしょうか？まち協課では、補助金とは次の目的を達成する為に使われるのではないかと考えます。

・地域の話し合いやつながりなど協働を生み出す「地域づくりの場」を支えるために使われるもの。
・地域の皆で身近な課題を話し合える場を支えたり、話し合いや協働を通じて地域課題の解決につなげる為に使われるもの。

ただ、補助金には大切な前提があります、それは
・主要な財源は税金。
・使途に公益性や公平性、透明性があること。
・支出内容をきちんと説明できること。
以上の事を出席者と確認しました。



▶「 支出の根拠になるもの 」

支出の土台になるのは、会のビジョンや事業計画書など

次に「この支出って当たってる？」「これって補助金で払っていいの？」というような疑問があった時に何を根拠にして支出すればいいかについて話をしました。支出について疑問や迷いがある時、会のビジョンや事業計画書等に基づいて考えると支出の判断がしやすくなります。

ビジョンや事業計画書等に基づいた支出だと「何のための支出か」が説明しやすくなるのではないでしょうか？

この点についても参加者から多数の共感を得る事ができました。

▶「支出の基本的な流れ」

支出の基本的な流れについて次のような説明を行いました。



上記 6 つの中でも特に①②については特に重要になってきます。

②については会のメンバーやまち協課の職員にどしどし相談するようお願いしました。ちなみに①～⑥の流れで支出をしている校区があるか確認しましたが、

ゼロでした(´；ω；`)ｳｩｩ

▶「支出明細で大事なこと」

会計事務を処理するにあたり、大切なことは何かについても話をしました。

- 何に使ったが分かる
- どの活動どの事業に関する支出かわかる
- 日付や金額、支払いの相手先が分かる
- 領収書や資料とひもづく
- 後から見ても説明ができる

また、メモを少し残しておくだけでも、後の説明がしやすくなるのではないか？と提案してみました。

▶ワーク

これまでの説明を踏まえてワークを行いました！！ワーク内容は

「会計実務で困ったこと・困りそうだなと思うことは？？

会計実務で工夫していること・工夫できそうだなと思うことは？」

について、思いつくことをどんどん書き出していきました。

困ったこと、困りそうだなと思うことについては

「レシートをなくした」「支出に向けて同意を得る過程があいまい」「費目が適当」

「まとめて領収書を持ってくる」「食糧費が多い(;’∀’)」「精算作業の時間確保」

「銀行へ行く時間の確保」「レシートに購入商品の明細がない」などの声がありました。

また、**会計実務で工夫していること・工夫できそうだなと思うこと**については

「イベント終了後、次の会議までにはレシートを提出してもらう」

「ラインを活用したやり取り」「会計事務作業の分担（できることはやってもらう）」

「写真等を付けさせる」「事業計画を明確にしている」

「市職員へ逐一確認」「事業費と運営費について月に一回話し合いをしている」

「役員やメンバーと密に連絡を取り合う」などの声がありました。

▶実務で大事な３つのポイント

ワークを終えて、実務で大事な３つのポイントについて話をしました。

①支払っていいかを考える

目的に合っているか、対象経費として説明できるかを確認する。

②処理の流れを確認する

支出の前後において、何を確認すべきか会の中で共有しておく。

③支出明細・証拠書類を残す

後から見ても分かるように記録と資料を揃える。

実務に臨むにあたっては「目的」と「説明できる状態」を意識することが大切です。

▶会計会から各校区まち協に持ち帰って欲しい事



・会計は一人で抱え込まなくてよい。

・迷ったときはビジョン

・目的に照らして考える。

・早めの相談が大切。

・それぞれの校区まち協全体で共通理解を持つことが大切。

の４つを提案しました。

また、本日の分科会に出席した会計担当者から会長や役員、コアメンバーに是非、今日の考え方や気づきを共有してくださいとお願いしました。

▶最後に

年度末３月に行う補助金の精算処理作業について一連の流れを説明しました。

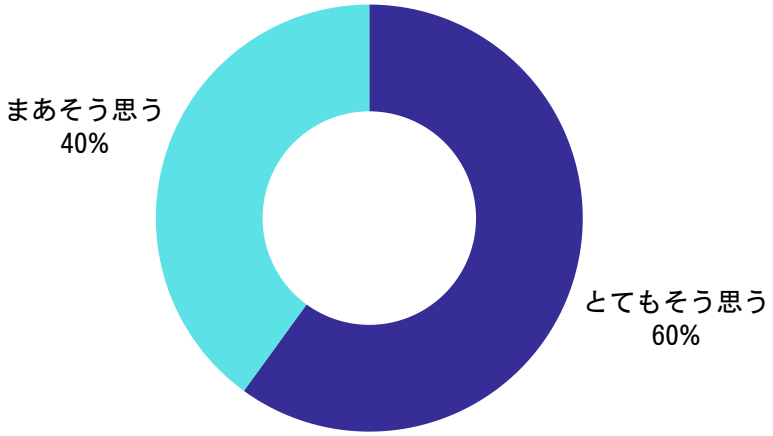
報告書が提出されてからの精算処理で、まち協課担当職員も細かく実績報告書をチェックして、何かあれば上司や関係部署に説明しなければなりません。

しかも、３月31日に精算ができないと、補助金の返還ということにもなりかねません。

３月は皆さんもお仕事などお忙しいかと思いますが、皆さんの大切な補助金を守るためにも、スムーズな会計処理ができるよう皆さんとまち協課職員とで協力していきたいと思いますのでこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

2-4 分科会③（会計）事後アンケート

Q7　分科会③会計の内容は、補助金について理解が深まったり、考えを深めるきっかけとなりましたか？



〇とてもそう思う
・会計の要項を初めて見たので、勉強になった
・LINE等で領収書等の写真を事前に連絡することで支出の準備ができる、 会計担当者を複数人として負担軽減
・情報共有と共通認識、そしてLINEの写真などで領収書をその都度、会計に共有で後にためない、紛失防止になる。抱えすぎず、気になることは那覇市の職員に確認を心がける
・支出明細の扱いについてLINEでの共有など提出期限の徹底。1人で抱え込まない
・どこのまち協も似たような悩みを抱えてることがわかってよかった
・情報の共有・報告・相談・連絡の重要性。レシートの締め切りを守ってもらう
・会計は1人で抱え込まない。サブが必要。レシートを写メでLINEで共有する
・補助金は税金(説明を求められた時に説明できるか)
・事務局でも要綱の共有など、共通認識を持つ必要がある
・最後は「対話」「コミュニケーション」
・スキルを磨くことも大切だが、対話・情報共有を行うことが、会計実務において重要であると認識した
・担当の「きつさ」を考えさせられました

〇まあそう思う
・会計の代理出席でした。実際に会計をしている方のご苦労がわかり、協力しなければと思いました
・領収書の精算に関わる目的(明細)をしっかりとる
・会計に関して複数で行う
・レシートは提出を待つのでほ無く、その日に写メを共有LINEに送ってもらう
・情報共有の工夫
・補助金としての意識づけ、情報共有の大切さを改めて感じました

2-5 全体会（後半）

報告書作成担当：まちづくり協働推進課　矢田部 建佑
発表者：まちづくり協働推進課　野底 武光
場所：牧志駅前ほしぞら公民館　ホール

▶誘う、迎える、みんなで支える



会長・事務局・会計の３つの分科会を終えた参加者が、
再び全体会場に集まりました。
参加者全員が集まった後半では、
各分科会の担当者から話し合いの内容が報告され、
参加者同士でも、それぞれの気づきや自分の校区で試してみたいことを共有しました。

▶会長分科会――地域と人をつなぐ「誘い手」

会長分科会では、新たな仲間を増やすうえで大切な「誘い手」について考えました。
地域活動に関心があっても、自分から会議や活動へ参加することは簡単ではないなかで、そこで、少しおせっかいでも声をかけ、人と地域との接点をつくる存在が「誘い手」です。誰に声をかけるのか、どのような誘い方なら参加しやすいのか、それぞれの地域にいる「誘い手」を思い浮かべながら、仲間の輪を広げる方法を話し合いました。

▶事務局分科会――「また来たい」と思える場へ

事務局分科会では、初めて会議に参加する人の立場になり、会議や活動の場にある不安を洗い出しました。
「どの席に座ればよいか分からない」「いつ発言すればよいか迷う」「会議がいつ終わるのか分からない」。普段から参加している人には見えにくい戸惑いが、数多く挙げられました。
そのうえで、新しい参加者を紹介する、名札を用意する、会議後に個別に声をかける、終了時刻を明確にする、BGMを流して話しやすい雰囲気をつくるなど、継続して関わってもらうための工夫がたくさんでてきました。
話し合って終わるのではなく、出されたアイデアを次の会議で一つでも試してみることが今後必要になってくるのではないでしょうか。

▶会計分科会――会計を一人だけの仕事にしない

会計分科会では、会計担当者の心構えや補助金の性質について学び合いました。
活動を企画・実施する人と、その後の会計処理を担う人が、目的や考え方を共有することが重要です。会計を担当者だけの仕事にせず、分科会で得た学びを定例会などで共有し、組織全体で理解していく必要性が確認されました。
参加者は、気づいたことや地域のメンバーへ伝えたいことを付箋に書き出し、それぞれの校区へ持ち帰りました。

▶参加者の声から見えたこと

全体共有では、「会議後に声をかけることが次の参加につながる」「交流会から参加してもらう方法もある」「音楽があると場がやわらぐ」といった声がありました。また、自治会やPTA、学校、地域団体、中高生など、年代や立場の異なる人が関わることの大切さも感想に挙がっていました。

その一方で、イベントには多くの人が集まっても、運営を担うメンバーは長年変わらないという課題も挙げられました。新たな人を誘うだけでなく、来てくれた人を迎え、次の担い手へとつないでいくことが必要であることが再認識されました。

▶次の一歩ことは、みんなでつくるマニュアル

今後の展開として、各校区の組織運営や場づくりで大切にしたいことを整理する「運営マニュアル」を、市民と行政が協働で作成していくことが提案されました。行政だけで作るのではなく、実際に地域で活動する人たちの経験や工夫を持ち寄り、現場で活用される内容を目指していく。これからもAIやオンライン会議なども取り入れながら、無理なく参加できるプロジェクトチームとして進めていく必要があるでしょう。



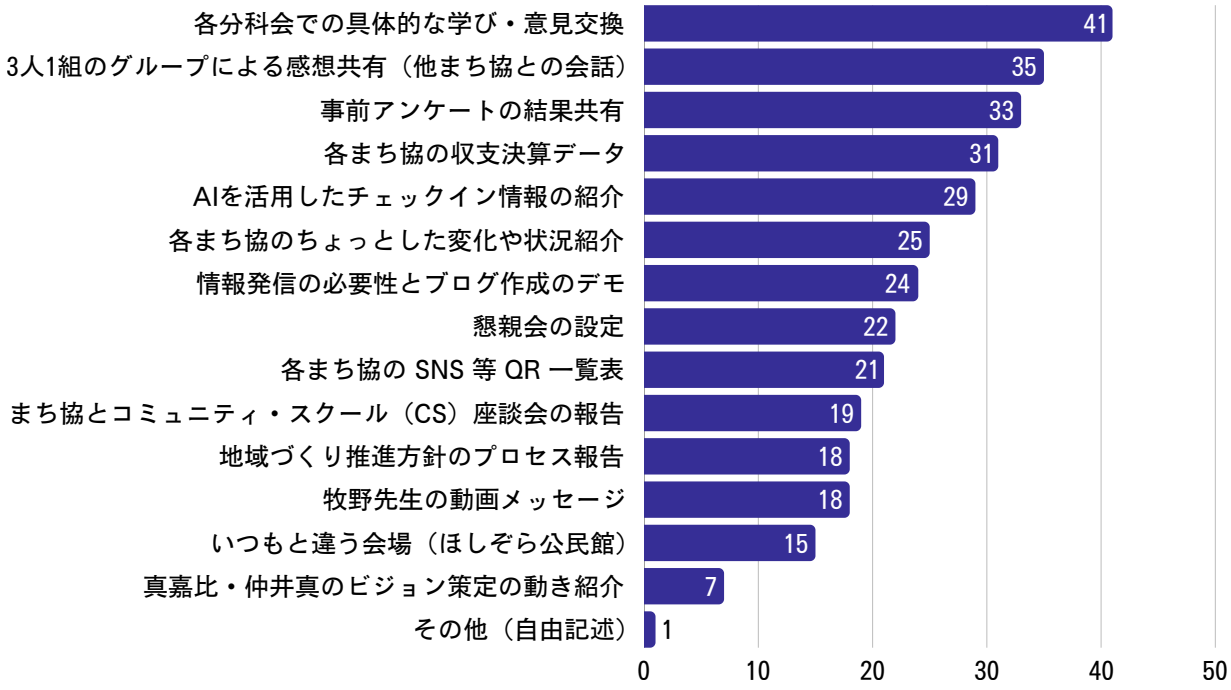
▶全体共有を終えて

３つの分科会の学びは、それぞれ独立したものではありません。誰かが声をかけ、「誘い手」となり、参加してくれた人を温かく迎え、活動をみんなで支えていく。その積み重ねが、地域に新たなつながりを生み出していくのではないでしょうか。最後には、地域の活動を特定の一人に背負わせず、複数のメンバーで支えていくことの大切さも共有されました。

今回の意見交換会で得た気づきを、それぞれの校区へ持ち帰り、まずは次の会議や活動で一つ試してみること。そこから、各校区の新たな一歩が始まっていくことを期待して、和やかな雰囲気で令和８年度校区意見交換会は幕を閉じました。

2-5 全体会（後半）事後アンケート

Q8　今回のイベントで、特に「良かった」「参考になった」「満足した」と感じるものをすべてお選びください（複数回答可）



Q9　本日の意見交換会全体を通して、最も印象に残ったことや、ご自身の「気づき」を教えてください

〇他校区との情報交換・交流の大切さ
・他校区でも同じような悩みや課題を抱えていることがわかり、安心感や参考になった。今後も意見交換を通して、一緒に解決策を探っていきたい。
・他の校区まち協の活動や情報、新たな出会いを通して多くの学びがあった。各校区まち協の特性や課題をより具体的に共有できると、さらに有意義だと感じた。

〇参加者を増やす仕組みとつながりづくり
・会長や役員だけでなく、地域の一人ひとりが「誘い手」となり、新しい参加者を増やしていくことが大切だと再認識した。呼びかけ人の育成や、参加した人が継続して関われる役割づくりも必要だと感じた。
・人と人との信頼関係や、ゆるやかなつながりが重要だと感じた。具体的な方法や担い手、行政によるコーディネーター派遣についても知りたい。
・地域・子ども・学校をつなぐ入口として、まち協の重要性を感じた。地域の力を信じ、活動を続けていきたい。

〇楽しく参加できる会議・場づくり
・会議を楽しくし、さまざまな人が参加しやすい環境づくりが大切だと感じた。
・BGMや「蛍の光」の活用、自己紹介の工夫など、何度も参加したくなる会議づくりが参考になった。
・グループ編成や進行が良く、活発な意見交換ができた。最初は緊張した雰囲気が次第に笑顔に変わっていったことも印象に残った。

〇まち協の運営・継続に向けた気づき
・さまざまな人がそれぞれの思いを持って活動していることに気づいた。一方で、人間関係の難しさや持続可能性への課題も感じた。
・事務局メンバーのコミュニケーション、LINEなどを活用した情報共有、情報発信や分会の設定など、具体的な運営方法を学ぶことができた。
・会計の大変さや重要性を改めて感じた。会計に特化した勉強会や交流会を求める声も多かった。AIの活用や参加者の属性整理を通して、今後の活動の進め方を考えるきっかけになった。

〇今後の活動への思い
・自分の住むまちをよくしたいという思いは共通していると感じた。自分たちの校区を自信を持って紹介できる、魅力あるまち協を目指したい。
・今回の意見交換会を通して、まち協で抱えていたモヤモヤが少し解決したように感じた。今後も他地域の取り組みを参考にしながら、明るく楽しく活動していきたい。

2-5 全体会（後半）事後アンケート

Q7　本日得たヒントをもとに、ご自身の地域や活動で「まずこれをやってみよう」と思うことがあればおしえてください

〇会議の進め方・参加しやすい場づくり
・名札やネームプレートの活用、受付名簿の工夫、自己紹介（最近楽しかったことやハマっていることなど）を取り入れ、お互いを知る機会をつくりたい。
・BGMや「蛍の光」などを活用し、リラックスして参加できる楽しい会議の雰囲気をつくりたい。 初めて参加する方への声かけや役員への紹介、隣に座ってのサポートなど、参加しやすい環境づくりに取り組みたい。
・会議時間の短縮や、発言しなくても参加できる席の設置など、継続して参加しやすい工夫をしたい。

〇情報発信・AIの活用
・活動内容や会議で話し合ったこと、議事録などをブログやその他の情報発信ツールで発信したい。
・AIを活用して「まち協とは」の説明動画や、新しく参加する方への案内動画を作成したい。
・誘い手ツールの作成や、AIを活用した広報活動の充実に取り組みたい。 今日の学びや資料をメンバーと共有し、実施できそうなことをみんなで考えたい。

〇誘い手の育成・地域とのつながり
・身近な人や近所の方への声かけから始め、イベントへの参加者を増やしたい。
・「誘い手」の考え方を共有し、誘い手の育成や属性の整理に取り組みたい。
・自治会との連携を深め、子どもたちを巻き込んだ取り組みや地域を巻き込んだワークショップを開催したい。
・学校を中心とした取り組みをさらに進めたい。

〇運営体制・会計の見直し
・会計に今回の学びを報告し、協力できることがあれば取り組みたい。
・小口現金の取り扱い規定の作成や、まち協独自の予算確立について検討したい。
・月1回の事務局会議の復活、メンバー組織の立て直しや活動の方向性について話し合いたい。

〇まずはできることから
・まずは取り組みやすいことから実施し、「これからやってみよう」という具体的な行動につなげたい。
・今日学んだヒントをメンバーに提案し、みんなで相談しながら進めていきたい。

Q8　事務局や運営へのメッセージ、次回期待することなどがあればご自由にお書きください

〇企画・運営への評価

・説明がわかりやすく、時間設定も良かった。テーマやワークショップも参考になり、これまで参加した中で最も多くの学びを持ち帰ることができた。
・毎回工夫を凝らした企画・運営や、会場づくり、資料の準備など、まちづくりのサポートに感謝している。今後もさまざまな情報発信や意見交換の機会を期待したい。
・他校区の方々とつながる機会ができたことが良かった。次回の開催も楽しみにしている。
・ワークショップは良かったが、グループでの共有・話し合いの時間が十分になかったため、もう少し時間を確保してほしい。
・開会・閉会の挨拶について、もう少し気持ちのこもった進行を期待する意見があった。

〇会計・資金に関する学びと要望

・ アンケート集計結果や収支報告のデータが参考になった。収益事業の具体例や、活動資金を増やす方法についても知りたい。
・ 補助金の使途や振り分け方、会計科目・会計簿の具体例を学びたい。前年度のものを参考にしているが、現在の方法でよいのか不安を感じることがある。
・ 会計の仕分け内訳（例）や、具体的な会計の勉強会を希望する。

〇AI・まち協運営に関する要望

・AIを活用したデモンストレーションが参考になった。今後も便利な使い方を教えてほしい。
・校区まち協の事務局メンバーは時間的な余裕がある人でないと難しいのではないかという疑問がある。実際にどのような人が参加しているのか、負担や参加しやすさについて知りたい。
・ 組織の法人化について説明してほしい。
・ 集まる場所の不平等について考えてほしい。

〇今後の地域活動への期待

・市民協働の大切さを、市民にもっと知ってもらうための活動を進めてほしい。
・首里地区の校区まち協同士の連絡会や懇親会など、継続的な交流の場を検討している。
・参加前は気が進まなかったが、実際に参加してみて良かったという声もあった。今後も参加したくなるような意見交換会を期待したい。
・生きてる間は全て参加する、だから次回必ず来るよ

第３章
参考資料



3-1 各小学校区まちづくり協議会/協議会準備会/たまご会概要一覧



与儀小学校区 まちづくり協議会

HP　カルテ

2011年、那覇市第１号の小学校区まちづくり協議会として設立。「楽しくつながる与儀のまち」を合言葉に、住民や学校、企業などが連携して活動している。代表的な取組は「よぎトゥクリキワタまつり」。子どもたちの演舞や地域団体の舞台、出店などを通して世代間交流を生み出すほか、清掃・花植え、子どもの健全育成、地域課題の解決にも取り組んでいる。



石嶺小学校区 まちづくり協議会

HP　カルテ

2011年設立。「みんなでつくろう いきいきいしんみ」を合言葉に、世代を越えた交流を育む。目玉は、慰霊の日に地域の史跡や戦争の記憶をたどる「いしんみ歴史ウォークラリー」。子どもたちへ地域の歴史と平和の大切さを手渡している。グラウンドゴルフ大会やラジオ体操、道路ボランティアなど、多彩な活動で地域のつながりを広げている。



若狭小学校区 まちづくり協議会

HP　カルテ

2012年設立。自治会、学校、公民館などが連携し、安心・安全で住みよい地域づくりに取り組んでいる。代表的な取組は、若狭海浜公園で開かれる地域最大の催し「若狭地域文化祭」。舞台発表や出店、子どもの遊び場、旗頭や獅子舞などを通して幅広い世代が交流するほか、夏休みのラジオ体操や子どもの見守り、歴史・文化を継承する活動にも取り組んでいる。



銘苅小学校区 まちづくり協議会

HP　カルテ

2013年設立。前身の「銘苅っ子ゆいまーる連絡協議会」を受け継ぎ、学校、PTA、自治会、企業などをつなぎながら活動している。代表的な取組は、新都心公園を中心に１８年以上続く「新都心ゴミ拾いクリーンデー」。地域美化を通して交流を育むほか、フードドライブ、歩き旅、キャリア教育、災害時の避難支援体制づくりなど、多様な地域課題に取り組んでいる。



曙小学校区
まちづくり協議会

HP　カルテ

2014年設立。学校、PTA、自治会、地域住民が連携し、地域の未来を考え活動している。代表的な取組は、曙地域の公園やまちなかに交流の場をつくる「パーラー公民館」。流しそうめんや紙芝居、季節の催しを通して親子や住民をつなぐほか、毎週の学習支援「寺子屋」や、学校への宿泊、防災食体験などを行う「なは防災キャンプ」にも取り組んでいる。



仲井真小学校区
まちづくり協議会

HP　カルテ

2016年設立。住民や自治会、学校、企業などが連携し、世代を超えて支え合う地域づくりに取り組んでいる。代表的な取組は、色鮮やかなこいのぼりが国場川を彩る「国場川こいのぼりまつり」。子どもや家族が集う交流の場をつくるほか、地域情報をまとめた「なかいまっぷ」の作成、ランタンまつり、清掃や地域課題を学ぶ勉強会など多彩な活動を展開している。



城西小学校区
まちづくり協議会

HP　カルテ

2018年設立。首里城を擁し歴史的景観が残る「御城のまち」で、住民や学校、自治会、地域団体が連携している。代表的な取組は、糸芭蕉を育て児童と手すきの芭蕉紙で卒業証書を作る「芭蕉紙プロジェクト」。首里の伝統文化と風景への愛着を育むほか、子どもの見守り、地域交流、環境整備、首里城復興や歴史的景観を生かしたまちづくりにも取り組んでいる。



小禄南小学校区
まちづくり協議会

HP　カルテ

2018年設立。自治会、学校、福祉施設、企業などが連携し、誰もが活躍できる安全でやさしい地域づくりに取り組んでいる。代表的な取組は、約250人が参加した「美化清掃＆花壇づくり」。校区を歩いてごみを拾い、花を植えながら世代間交流を深めるほか、うるくまちまーい、自転車安全教室、認知症サポーター養成講座、フードドライブなどを行っている。

3-1 各小学校区まちづくり協議会/協議会準備会/たまご会概要一覧



天妃小学校区 まちづくり協議会

HP　カルテ

2019年設立。学校、自治会、企業、外国人支援団体などをつなぎ歴史と多文化が息づく地域づくりに取り組んでいる。代表的な活動はクイズやテント設営などを競技形式で学ぶ「防災運動会」。楽しみながら地域の備えとつながりを育むほかハロウィンスタンプラリー、てんぴっこまつり、子ども大綱引き、夜間パトロールなど、子どもを中心とした活動を支えている。



首里三ヶ城南校区 まちづくり協議会

HP　カルテ

2019年設立。前身の「首里三ヶ青少年健全育成会（三青会）」を受け継ぎ、崎山・赤田・鳥堀の三町を中心に活動している。代表的な取組は、崎山公園の桜をライトアップし、那覇の夜景や地域芸能を楽しむ「城南校区夜桜まつり」。城南小児童との桜の植樹や防犯パトロール、子どもの見守りなどを通して、首里の歴史と景観を次世代へつないでいる。



大名小学校区 まちづくり協議会

HP　カルテ

2019年設立。学校、児童館、自治会、福祉施設が連携し、顔の見える地域づくりを進めている。代表的な取組は、「大名地域合同運動会」。こどもからお年寄りまで地域の人たちが一緒に盛り上がる姿は大名らしい風景。そのほか、村あしびや友愛訪問も行っている。定例会ではどこからかバンドの音楽がふわっと聴こえてきたりして、どこか文化の香りも漂っている。



城東小学校区 まちづくり協議会

HP　カルテ

2019年設立。学校、PTA、自治会、福祉施設が緩やかにつながり、誰もが住みよい地域づくりに取り組んでいる。代表的な活動は、城東小学校前の通りを色鮮やかな光で包む「イルミネーション点灯式」。吹奏楽部の演奏や出店を交え、地域交流を盛り上げるほか、仮装した子どもたちが校区を巡るハロウィン、環境整備、防災活動、広報誌の発行などを行っている。



真和志小学校区
まちづくり協議会

HP　カルテ

2021年設立。自治会、学校、福祉団体などが連携し、安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいる。代表的な活動は、舞台発表や飲食・体験ブースで地域がにぎわう「まわしティーダ祭り」。子どもから高齢者までが集い、顔の見える関係を育むほか、地域清掃、防災活動、学校の学習支援、多世代の居場所づくりを通して、地域の課題解決と交流を進めている。



那覇小学校区
まちづくり協議会

HP　カルテ

2022年設立。旧久茂地・前島小学校区の住民、学校、企業、商店街、地域団体などがつながり、地域の魅力と課題を共有している。代表的な取組は、地域で活動する人々をゲストに迎え、情報を毎週生放送で届けるFM那覇の番組「なはまちサロン一座建立」。情報交換会「なはまちサロン」や掲示板、ブログも連動させ、まちなかの多彩な活動と人をつないでいる。



金城小学校区
まちづくり協議会

HP　カルテ

2023年設立。「地域への思いを地域活動に変える場」を掲げ、誰もが参加できるまちづくりを進めている。特徴は「地域のために活動したい」という思いを、仲間づくりや資金面から後押しする「プロジェクト支援」。金城小学校の敷地に地域、学校、保護者が協働で畑をつくる「かなっちファーム」も始動し、住民のアイデアからつながりと活動を育てている。



泊小学校区
まちづくり協議会

HP　カルテ

2025年設立。学校、地域団体などがつながり、泊の歴史や文化を生かした、安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいる。代表的な活動は、地域を歩きながら史跡や魅力を再発見する「ぶらとまり」。琉球王国ゆかりの崇元寺で文化財を学び、清掃するボランティア活動なども行い、子どもから大人までが地域を知り守り、次代へつなぐ機会を育てている。

3-1 各小学校区まちづくり協議会/協議会準備会/たまご会概要一覧



松川小学校区
ひと・まちづくり協議会

HP　カルテ

2026年設立。準備会から地域の人々が交流を重ね、地域をつなぐ協議会へ発展した。大切にしているのはつながりをつくること。また、多世代間交流にも取り組んでおり、高校生の持ち込み企画、「こども縁日」の実施をサポート。発足前から「タコライスたべりば！」や防災学習等にも取り組み、経験を生かして世代を越えて支え合う地域づくりを進めている。



上間小学校区
まちづくり協議会準備会

HP　カルテ

2024年発足。自治会、学校、地域団体などがつながり、安心して暮らせる地域を目指して、協議会設立に向け活動している。代表的な取組は、上間小学校周辺の魅力や歴史を学び直す「上間散歩～いーまさんぽ～」。防災教室では災害への備えや助け合いを考えるなど、住民が顔を合わせ、地域を知り、課題を共有する機会を重ねながら、つながりを育てている。



高良小学校区
まちづくり協議会準備会

HP　カルテ

2024年発足。自治会や学校、地域団体などがつながり、協議会設立に向けて活動している。約60人が参加した地域ワークショップでは、「高良の良さ」や地域の課題を語り合い、まちの将来像を共有。防災講演会も開催し、現在は子どもたちの声を集めるアンケートや冬のまち歩きを企画し、多様な世代が関わり合う、顔の見える地域づくりを進めている。



真嘉比小学校区
まちづくり協議会準備会

HP　カルテ

2025年発足。自治会や学校、地域団体などがゆるやかにつながり、協議会設立に向け活動している。大きな一歩となったのが「まかび未来スケッチ」。子どもから大人までが地域の魅力や課題を語り合い、10年後のまちの姿を自由に描いた。美化活動や防犯パトロール、防災講話にも取り組み、多世代の声を生かした、わくわくする地域づくりを進めている。



城北小学校区
まちづくり協議会準備会

HP　　カルテ

2025年発足。自治会や学校、地域団体などがつながり、協議会設立に向け活動している。出発点となったのは「城北小学校区まちづくり大大大！ゆんたく会！」。参加者が地域の魅力や課題、これからの城北について語り合った。首里地区のまち協や協働大使との交流会にも参加し、校区を越えたつながりを広げながら、誰もが関われる地域づくりを進めている。



古蔵小学校区
まちづくり協議会準備会

HP　　カルテ

2025年発足。自治会、学校、地域団体などがつながり、安心して暮らせる地域を目指して、協議会設立に向け活動している。代表的な取組は、上間小学校周辺の魅力や歴史を学び直す「上間散歩～いーまさんぽ～」。防災教室では災害への備えや助け合いを考えるなど、住民が顔を合わせ、地域を知り、課題を共有する機会を重ねながら、つながりを育てている。



城岳小学校区
まちづくり協議会たまご会

Coming soon

HP　　カルテ

2024年、「たまご会」発足。2026年10月準備会設立予定。たくさんの対話を重ね、準備会として新たな一歩を踏み出す。きっかけとなった「城岳チャンぷるー会」では、世代や立場を越えて、地域の好きなところや課題、自分にできることを語り合った。海や夕日を望む公園、あいさつが行き交う温かさを地域の力に、子どもを真ん中にした城岳の未来づくりを進めていく。



神原小学校区
まちづくり協議会たまご会

Coming soon

HP　　カルテ

2025年、「たまご会」発足。まちづくり協議会の設立を目指して定期的に定例会を開き、回を重ねるごとに多くの人が集まっている。神原の魅力や課題、これから大切にしたいことを語り合いながら、地域の声を一つずつ形にしていく段階。多様な人がゆるやかにつながり、誰もが安心して暮らせる神原の未来を描いている。

3-2 編集後記

（分科会③）プロジェクター付かない！資料が分科会始まっても机の上にない！（あの時は走れた）けんたさんのファインプレーで助かった～～！あと、前日の夕方まで課長と打合せしたな～
（新垣）

全部！頑張った！全力でした！直前に胃腸炎になった時、出勤できないけど家族にうつさないために実家まで行って夜中に資料作成しました～
（宮城）

分科会②のワークに入ってみて、場づくりについて皆さんが真剣に考えていた姿が印象的。今後自分たちの校区で続けるかがカギだね、その場で終わらせないように記録も残ってるしね（笑）担当職員はそこも注目しないとね
（渡嘉敷課長）

人に話を聞いてもらうの大変～時間配分むずかった～もっと時間かけて話したい部分もあったけどな
（新垣）



報告書もみんな概ね期限守ってくれました！（笑）それぞれ個性的な文章を多少統一して見やすくできたのでは？？参加していない人も報告書見て参加した気持ちになるとものになってたらいいな～
（田名）

緊張する余裕もなく忙しすぎた～当日準備間に合わないと思ったわ。リハーサルもちゃんとしたからね～何とか終わって、気づいたら息切れしてたね。
（宮城）

校区のないエリアの自治会長さんが来てくれて嬉しかったね！
（後藤・新垣）

最終的には地域の人と校区意見交換会を一緒に作っていけるといいですね
（野底）

コアメンがなかなか足が揃わないところでも、今回を機に話すことができ、お互いにとっていい機会だったのでは…！他校区に影響を受けることもあったかな～
（矢田部）

会長会の組み立て頑張った！丁寧に矢田部さんとね。時にはぶつかったり。思いの強いふたりだからね
（後藤）

受付として校区皆さんの笑顔を一番に迎えることができた
（渡嘉敷な）

＜企画・運営メンバー
全体会・司会進行
全体会（コミュニティ・スクール）
分科会① 会長｜仲間づくり
分科会② 事務局｜場づくり
分科会③ 会計｜会計実務
受付
懇親会・飲食手配.
報告書編集・デザイン

部長副部長、
緊張してたのでは??
（一同）

まち協課として、1つのものをみんなで
作っていく過程良かったね～
参加者が笑顔でやってよかったな～
と思えた
（宮城）

ゆんたくの場で
出た意見も職員
として大事に拾っ
ていかなきゃね
（矢田部）

来年、どこかの
まち協として
参加してるかも
（矢田部）

会計のスライド作り、実
は後藤がしてくれました～
（新垣）



会長会の準備、ぎりぎりまでやっ
てたね～やらないのにこだわり強い
後藤、会長イラストへのこだわりが
強い矢田部、後藤さんが学んで
きたものを引き出すこと難しかった
～→後藤さん、先生の人物像の
話ばっかり話すやん！((笑))
（矢田部）

校区の皆さんが
レクチャーする場面が
あるといいかも。
校区まち協が主体的の
連合会があるといいね
（渡嘉敷課長）

緊張しやすいので、
分科会②のワークの
シナリオを
一字一句作った！
慣れてきたら、自分の
言葉で言えるといいな
（渡嘉敷な）

校区意見交換会の
1週間前に課に入って、
課内は少しカオス
だったかも
（田名）

今までの報告書で一番
いいものを作ろうと意気
込んでたね。
（矢田部）

分科会①に参加して、後藤が
アカデミーで学んできたことを
活かした内容になっていて良
かった。各校区の方々がそれ
ぞれの校区について意見交換
してたことが印象的でした～
（慶田城）

校区意見交換会をはじめて経験する
職員が、1からこの会を作る。
みんなとっても頑張ってました！
分科会が心配だったけど、各分科会
の皆に任せてよかった、
上手か上手じゃないかさておき
俺もあんなだったな～～（笑）
（野底）

（那覇市まちづくり協働推進課）＞
野底 武光
渡嘉敷 洋美
後藤 柊人・矢田部 建佑
宮城 健太・渡嘉敷 奈津樹
新垣 威知郎・佐々木 一肇
安座間 睦・渡嘉敷 奈津樹
當山 隆大・浅井 清美・前里 絵里
田名 麻衣子・矢田部 建佑



※本報告書の内容を許可なく複写・複製・転載・翻訳することを禁じます。

令和8年度　校区意見交換会報告書

那覇市　市民文化部　まちづくり協働推進課

☎ 098-861-3846　　✉ C-KATU002@city.naha.lg.jp

まちづくり
協働推進課

まちづくり
協働推進課ブログ

なは市民活動
支援センター